

松下幸之助記念財団 研究助成
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

工藤 文

【所属】(助成決定時)

早稲田大学大学院政治学研究科

【研究題目】

1950年代中国における民営新聞の所有者変更プロセスの分析
—上海『新民報』の公私合営化を事例に—

【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、1950年代に行われた中国における民営新聞の所有者変更プロセスを実証的に明らかにすることである。

1949年に中国共産党が政権についてからも一部の民営新聞は存続した。しかし、その後中国共産党は新聞統制を党が集中して行う政策を推し進め、現在ではそれらの民営新聞は共産党の新聞として管理されている。

民営新聞が公営新聞として変化する最初の政策として推し進められたのが、1950年代に実施された民営新聞の公私合営化である。その後、公営化政策によって民営新聞の所有者変更プロセスが進行していった。つまり、民営新聞の公私合営化は共産党による新聞管理政策の黎明期であり、その後の共産党による新聞管理の基礎となる政策になったと考えられる。

そこで、本研究ではこの公私合営化に焦点を絞り、中国メディアの政治統制をより深く理解するための手がかりを探る。一部の民営新聞はどのようなプロセスを経て共産党の新聞に変化したのであろうか。その際に民営新聞と共産党の関係はどのように変化していったのか。1950年代中国における民営新聞の所有者変更プロセスの研究は、現代の中国の新聞統制を理解することにつながる、きわめて現代的なテーマであるといえる。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究が分析対象とするのは1950年代に行われた新聞の公私合営化である。新聞の公私合営化とは、民営新聞に公的資本を投資して民間資本とともに経営することである。本研究では民営新聞から公営新聞への過渡期である公私合営化時期が私的資本家から共産党へと所有者の変更が行われ、のちの新聞と共産党の関係に影響を与えたと推測し分析対象とした。

対象とする新聞は、上海の『新民報(晩刊)』(のちの『新民晩報』)である。上海版の『新民報』は1946年に創刊し、1953年に公私合営化、1958年に国営新聞へと変更し現在まで存続している。『新民報』を対象とする利点は次の三点である。第一に創刊時に民営新聞である点である。第二に政論紙として創刊したため共産党との関係変化を考察しやすい点である。第三に1950年代の『新民報』は縮刷版が発行され図書館でのコピーが可能であり分析の実現可能性を担保できる点である。

本研究は歴史資料の分析を行い、公私合営化時期の新聞社の出資者の変更と、併せて組織構成の変更を明らかにしていく。档案馆での資料収集では公私合営化時期における資本関係の変更とその後の組織的变化に関する資料を集めた。より具体的には、『新民報』の経営状況や財政資料、資本金の変化などを調べる。さらに、『新民報』の組織構成に着目し公営化までの経緯を档案馆の資料を用いてまとめる。資料収集は2016年3月に『新民報』の歴史資料を数多く保管している上海市档案馆にて行った。政策の分析だけでは所有者の変更と民営新聞の独自性との関係が不明である。そこで、公私合営化によって所有権が共産党の影響が強くなるとその影響が紙面にも反映されると考え、公私合営化時期の『新民報』の新聞記事を収集した。

【結論・考察】（４００字程度）

上海市档案馆で入手した上海『新民報』の資料から、上海『新民報』の公私合営化は次のプロセスを経たことがわかる。『新民報』の公私合営化ははじめ経営赤字を理由としていた。1952年の損益表は赤字であり、主な赤字項目は新聞紙のコスト、発行にかかるコスト、広告にかかるコストなどである。その後1954年の会議資料では、上海の『新民報』に対して上海市人民政府文化教育委員会が出資し、元私営新民報会社が一部を投資していたことが明らかになった。したがって、公私合営化の初期段階では新聞の統制が民営新聞は政府資本を受けて公私合営化が進められた。しかし、その後は党によって政治的な新聞組織の変革が進められた。1956年8月に上海市党委員会による編集・経営の統一管理が提案される。さらに1958年3月、社長制を廃止し総編集長請負制が導入される。以上によって中国の新聞管理は資本による統制から党が直接管理する管理方式へと変化する。

以上の公私合営化から公営化のプロセスは、次の二つの点でその後の中国新聞統制を特徴づけたと考えられる。第一に、公私合営化から公営化にかけて資本や株式による管理が行われなくなったことで、資本や株式などの経営管理を通じた新聞統制のシステムが失われた。第二に、新聞・新聞社の所有を党委員会による管理と置き換えたことで、以降の新聞・新聞社の所有が不明確になった点である。本研究ではこのような党による新聞管理の「あいまいさ」が中国新聞統制の特徴として現代に至るまで引き継がれていると結論づけた。

以上